

世界報道写真展2005

6月18日(土) ⇒ 7月31日(日)

月曜休館 (休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日、7月25日は開館)
10:00~18:00 (木・金は20:00まで)
入館は閉館時間の30分前まで

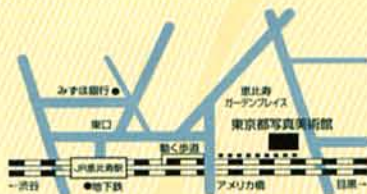
WORLD PRESS PHOTO 



2005年世界報道写真大賞 アルコ・ダッタ(インド・ロイター) 「スマトラ沖地震による津波で親族を亡くし嘆き悲しむ女性」 インド・タミルナドゥ州カッタロール 12月28日撮影

東京都写真美術館
2階展示室

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口より徒歩7分 Tel 03-3280-0099
http://www.syabi.com



主催 朝日新聞社 世界報道写真財団
共催 東京都写真美術館
後援 オランダ大使館 社団法人日本写真協会 社団法人日本写真家協会
協賛 キヤノン株式会社 キヤノン販売株式会社 TNT
観覧料 一般 700円(560円) 学生 600円(480円)
中・高生 400円(320円) ()内は20名以上の団体料金
小学生以下と障害をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料
65歳以上は第3水準日無料 ※観覧できるものと観覧できないものとがあります
お問い合わせ 朝日新聞社文化事業部「世界報道写真展」係 Tel 03-5540-7450

世界報道写真展2005

大地に身を投げ出した一人の女性——
今年の世界報道写真大賞は、無言のうちに、
スマトラ沖地震による津波の被害のすさまじさを私たちに訴えかける1枚でした。予期せぬ天災、各地で続く紛争、一方で肉体が躍動するスポーツシーンなど、受賞作品のそれぞれに映し出されている地球上で起きた様々な瞬間は、映像よりも鮮烈に真実の報道の重要性と力強さを物語っています。

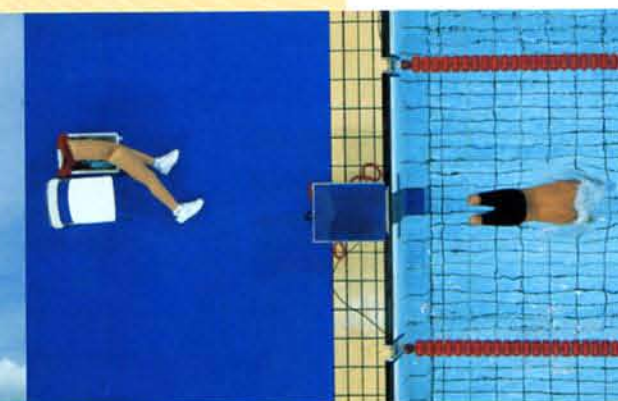
世界中のプロカメラマンが、時に命をかけて撮影した約200点の作品から、現在の「世界」が会場内に蘇ります。



スポーツニュースの瞬間
ユーリ・コズイェフ(ロシア、タイム誌)
「ベスランの学校占拠事件」 ロシア・北オセチア共和国



ニュースの中の人々の顔
クリストファー・モリス(米国 VIIからタイム誌へ)
「ジョージ・W・ブッシュの再選キャンペーン」



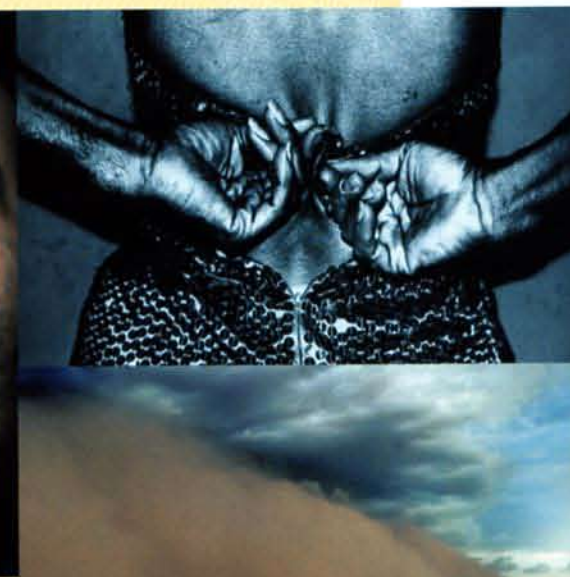
スポーツ・アクションの瞬間
ボブ・マーティン(イギリス、スポーツ・イラストレイテッド誌)
「アテネパラリンピック・競泳200メートル自由形」



ポートレートの瞬間
アダム・ナデル(米国、ボリス・イメージズ)
「ダルフルのポートレート」



ニュースの中の人々の顔
パウル・グリーカー(オランダ、ロイター)
「オランダ政府の新しい難民申請法に抗議するイラン人移民」



ポートレート・ポートレートの瞬間
マルチェロ・ボンファンティ(イタリア)
「キューバのドラッグクイーン」



現代社会の問題の瞬間
ミハエル・ヴォルフ
(ドイツ、ライプツィヒのシュテッティン誌へ)
「中国:世界の工場」

自然の瞬間
ジャック・クワンデュー(米国、ワシントンポスト紙)
「砂漠」 チャド